

演技性パーソナリティ障害の診断基準

過度な情動性と人の注意を引こうとする広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況によって明らかになる。以下のうち5つ（又はそれ以上）によって示される。

チェック	
(1) 自分が注目の的になっていない状況では楽しくない。	
(2) 他者との交流は、しばしば不適切なほど性的に誘惑的な、又は挑発的な行動によって特徴づけられる。	
(3) 浅薄ですばやく変化する感情表出を示す。	
(4) 自分への関心を引くために絶えず身体的外見を用いる。	
(5) 過度に印象的だが内容がない話し方をする。	
(6) 自己演劇化、芝居がかった態度、誇張した感情表出を示す。	
(7) 被暗示的、つまり他人又は環境の影響を受けやすい。	
(8) 対人関係を実際以上に親密なものとみなす。	

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。